



第33号 (年2回発行)

狭山市学校支援ボランティアセンター
 <事務所>

狭山市狭山台1-21

狭山元気プラザ内A棟3F

☎/Fax 04-2927-1395

E-mail: sayama-ssvc@bd.wakwak.com

電話受付: 月・水・金曜日午後1時~4時迄

「学校を核とした地域づくり」「地域とともにある学校づくり」を目指して

狭山市教育委員会 教育長 滝嶋 正司

日頃より、狭山市学校支援ボランティアセンターの皆様には、市内小・中学校への学習支援につきまして、多大なるご貢献をいただいておりますことに敬意と感謝を申し上げます。

さて、近年の核家族化の進行や少子化、地域のつながりの希薄化などに伴い、子供たちが家庭や地域の中で様々なことを学ぶ機会が少なくなってきております。

こうした中で、狭山市教育委員会では、地域学校協働活動を推進していくため、「狭山市地域学校協働活動推進員設置要綱」を定め、準備の整った市内4学校区に先行して推進員を設置したところであります。今後は、推進員の方々を中心に、PTA、自治会、NPO、企業、団体等の幅広い地域住民などの参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働し、「学校

を核とした地域づくり」

「地域とともにある学校づくり」を目指していきたいと思っております。

地域学校協働活動は息の長い活動であり、すぐ

に成果が表れるというものではありません。しかし、今、子供たちが地域で体験したこと、地域の人と一緒に活動したこと、これらが楽しい思い出となり、子供たちが「ふるさと狭山」を愛し、地域に貢献しようという気持ちを醸成することにつながります。正に未来への投資であり、地域の未来への種まきです。

今後においても、次世代を担う子供たちの健やかな成長に、皆様方の一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



外国籍の児童生徒への支援拡大に向けて

コロナ禍を経て、狭山市内でも外国籍と思われる人を見かけることが多くなってきました。

小中学校に通う外国籍の子どもたちには、教育センターから日本語指導者が派遣される仕組みがありますが、十分な支援がされているとは言えず、学校から相談を頂くケースが増加しています。できる限りの支援をしてあげたいのですが、それぞれに状況が違うので適切な対応をするのは難しいと感じています。

日常会話に慣れることは大人よりもずっと早く適応できるのですが、子どもによっては教室でじっとして勉強をすること自体に慣れていない場合もあるので、日本語の学習以前に生活習慣の違いを理解してもらう必要もありますし、高学年になると国語では詩の解釈

SSVC 事務局長 山田 恵一

など、知識だけでは対応できない課題も登場してきます。社会科でも日本の歴史や社会制度などを理解させることから始めないと学習が進まないことが多いように感じています。

技能実習生の事前研修のように、数か月間集中して日本語を学習する仕組みがあると良いと思いますが、先生が何を言っているのか分からない状態で教室に居なければならない時間を少しでも減らせるように、支えてあげたいところです。

日本語の授業内容が分かるようにすることが目的なので、支援に当たって外国語ができる必要はありません。子どもたちに寄り添って、できることを少しずつ広げるお手伝いができれば、と考えています。

SSVCで活躍. 貢献頂いた方々のエピソードをこっそりと ④

～～今までを振り返り、エピソードや今後の展望などシリーズで掲載中～

前 SSVC センター長 諸井 寿夫

SSVC は、多彩な経歴をお持ちの多くの方々が活躍を頂いております。今回趣向を変えて私が存知あげているエピソードやユーモア溢れる人柄を思い出して、皆様にお披露目したいと思います。

・故) 高澤房さん・設立当初からセンターの事務局として活躍、パソコンが得意でいつも遅くまで熱心に作業されておりましたが、ある日夢中で気が付いたら校内は闇の世界、さてどうしようと施錠された事務所のある狭山台中の校門ゲートをよじ登ったところ「セコム」が飛んできたと、翌日校長室へ報告に伺った。

・故) 帖佐修さん・生まれは鹿児島県の知覧、昔なら特攻隊に志願していたと、SSVC の広報 G に所属して「朝日のびのび教育賞」の応募書類を作成頂き見事に入賞し、感謝です。その受賞パーティーを新狭山ホテルで開催するが、当初の予定は、3月11日(2011)でしたが、新聞記者の都合で、前日に変更、もし予定どおりでしたら、大地震で停電し、電車ストップと大変な事となっていたとの思いでした。

・大石和さん・市民大学英会話の受講生が最初の出会い、修了生として、学習支援員、CN、運営委員など、そして学校支援の情熱を市長との新春座談会に参加いただき「さやま広報」新年号に掲載されました。永年東中の英語支援をされ、1年生から3年間全学年を通して支援すると生徒の名前も完全に覚え、そして新たに新入生を迎え弟、妹の顔、そぶりも兄弟そっくりで楽しく会話が進み意思疎通もスムーズで楽しく支援ができるとのことでした。



2011.12 SSVC 運営委員忘年会 (社会教育課3名参加) (高澤さん(前列左端)、帖佐さん(後列左3人目))

・山田太さん・中学生の英語支援を熱心にされており、某中学校の教室を見せていただくと、彼のリーディングの模範を生徒に示すこと、先生とのデモ英会話を聞かせるなどとても楽しそうな授業でした。先生と呼吸が合うことは、とても大事な事ですが、この先生が他校に転勤したら一緒に移動するほど先生と意気投合ができていたということです。

・Sさん・あるとき支援員のお一人に「学校支援は楽しいですか?」とお尋ねしたところ、「孫に会える、そして、“おばあちゃん”と呼んでもらえる」楽しみのこと。昨今の核家族化で、近くに息子さんご夫妻がお住まいだが、どうも垣根が高いようで、一般的に言われるように娘夫妻とは、だいぶ違うようです。

この SSVC には多彩なバックグラウンドを持った方が多数在籍しており、また次の機会に紹介する予定ですが、このメンバーの存在でここまで成長したことに敬意を表したいと思います。

(次号予定 教育委員会より新たな学習支援事業の要請を受ける ⑤)

2023 年度学習支援員養成講座開講

人材バンクグループ 講座担当 石井 宏晶

令和5年度さやまっ子の学習支援員養成講座がスタートしました。

入学式は、4月17日(月)山本さやま市民大学新学長にご参列いただき、元気プラザ教室3で挙行了しました。(今年度から対面です)

始めに、山田事務局長のご挨拶、引続き山本学長のご挨拶を戴き、受講生の自己紹介、休憩を挟んで山田事務局長の講演「ボランティア活動とまちづくり」で終了しました。

山本新学長の略歴：現在、東京家政大学名誉教授、同大学院の客員授、入間市教育委員、日本生涯教育学会常任顧問、公益財団法人日本教育公務員共済会埼玉支部教育振興事業選考委員会委員としてご活躍されています。また、埼玉県生涯学習審議会の会長、埼玉県社会教育委員会議議長、狭山市教育センター研究協力員や狭山市の各種審議会の委員を歴任されてこられました。

校長先生 こんにちは 32

かがやくひとみ 笑顔あふれる 楽しい学校

柏原小学校 校長 高瀬 晃次

SSVCの皆様、そして、保護者・地域の皆様には、日頃から本校の教育活動に対する温かいご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

柏原小学校の歴史は長く、明治8年（1875年）に創立した「柏原村立柏原学校」の時代から数えると、今年度、開校149年目を迎えています。川越市と日高市に隣接する学区は広く、学校の西側には智光山公園や狭山工業団地、北側には東京2020オリンピックの競技会場となったゴルフ場、北東部には柏原ニュータウンがあり、地域には畑や水田、用水路や史跡も見られます。このような豊かな自然と歴史、環境に恵まれ、480名の子供たちは、毎日、生き生きと学校生活を過ごしています。

今から15年程前、SSVCの皆様には狭山台南小時代に初めてお世話になりました。当時、私は教務主任としてボランティアさんとの連携の窓口を担当していました。台南小では、読み聞かせ・古民具体験学習・花壇整備・除草・落ち葉掃き・校内安全パトロールなど、多岐にわたってご支援をいただきましたが、私にとって特に思い出深いのは“理科支援”でした。当

時、6年生3クラスの理科を担当していた私は、授業支援をしていただけのようになって、実験の準備や片づけにかけていた時間が減り、その分、学校の課題であった統廃合な

どの仕事に集中できるようになりました。とても有り難く、感謝したことを覚えています。様々な支援をいただいた職員も、きっと同じ思いだったと思います。

ゴールデンウィーク明けから、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行し、ここでようやく学校でもいろいろなことができるようになりました。これからSSVCの皆様には、以前のようなご支援をいただける機会が増えると思いますが、学校も様々なご支援をいただきながら、子供たちの「笑顔」のために、より充実した教育活動を進めていきたいと考えています。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。



地域活動との連携をさらに進めて 第16回諮問会議より

運営委員会

2月25日（土）の10:00から新狭山公民館第2学習室にて第16回諮問会議を開催しました。諮問委員5名、社会教育課2名とSSVC運営委員の各グループリーダーを中心に6名が参加しました。諮問委員の紹介、SSVCの活動報告と活動方針説明の後、諮問委員の皆様から、今後のSSVCの活動を進めていくうえで貴重なご意見をたくさんいただきました。

1. 学校活動に参加・支援している団体と「地域学校協働活動では横の連携を進める」こと
2. SSVCが活動を開始してから16年が経過している。当初の自発的なボランティア活動の在



り方と、最近の行政との連携が強まってきた「地域学校協働におけるボラ

ンティア活動の意義」とでは幾分異なってきたのではないか

3. 活動に参加をしてくれるすそ野を広げるために「学生ボランティア活動との関わり合い」を強めて行ったらどうか
4. SSVCの活動をより広く知っていただくための「広報活動における様々な媒体の活用」について
5. 各学校から支援への期待が高まってきている「不登校生への支援」 など

例年よりもより幅広く具体的な提言が多く出され活発な会議となりました。



子供たちとの繋がり求めて、コロナの頃

感染が広がる前は堀兼小でも色々の支援が行われていました。8年も続いた教室での「算数支援」も2020年2月末でストップとなり、秋になっても収まらず、こんな中でも何か出来ることないかとの声が多くなり、その結果、今の「宿題チェック」がスタートしたわけです。別室で「対面なし」なので子供たちとのやりとりが出来ず、支援者はアドバイスするにも、もどかしくてたまらないわけです。正誤判定だけではなく児童との「対話」を通じて彼らの考え方を聞きながら「ヒント・アドバイス」を与えて、子供たち「自身で解決」してもらおうという方法が一番子供たちの役に立ちますので、「宿題チェック」も励ましの「コメント」と彼らが「自分の力」で正解に至るための「ヒント」を加えています。チェックした人は「サイン」をします。子供たちはそれを見て「返事」を書いている時もあります。時に正解を間違えて判定すると子供たちからは「合っているよ！」と怒った顔のイラスト漫画を書いてきたりします。慌ててこちらも「ゴメン！ゴメン！」と返したり、そのやりとりはとても微笑ましくある面では「対話代行」となっているようです。

チェックに限らず私たちが一番気をつけていることは「学校・先生の指導方針」との整合です。各学年・

堀兼小学校コーディネータ 庄司 一之
クラス担任の先生が求める「チェックポイント」や「視点」について教務の先生にお願いして「一覧表」にまとめてもらいました。「ヒント」を書き加える方法は、すべての先生が記入を望んでおります。支援者側からすれば正誤判定チェックだけに比べてかなり時間がかかりますが、効果があると先生たちも感じておられるでしょう。

2022年の2学期10月になり3年生だけの「教室対面・算数」の机間支援が始まり、暮れにはやはり「対面・書初め」の書写支援が行われました。

これから先の展開は感染推移とも関連すると思いますが、学校としても早い「教室対面」支援の実現を望んでいるとのこと。支援再開に備えて人材の増強が急務となった昨今です。



2022年度支援実績

コロナ禍3年目は、昨年度と同じく、子どもたちと顔を合わせない支援、家庭学習ノートの確認や小テストの丸付けなどの支援が主でしたが、家庭科や田植え・脱穀のような体験型学習で子どもたちと一緒に活動することも受け入れられるようになりました。また、教室に入ることをためらう子どもたちへの支援、別教室での見守りや一緒に学習することもありました。それに伴い、支援時間や支援者数も増え、支援者実人数は165名となりました。

2023年度は、コロナ5類移行で学校における対応も変わり、対面での支援を要望される学校が増えてきまし

情報集約グループ 角田 ふで子

た。家庭学習ノート確認のような非対面型の支援の要望も引き続きあるので、対面と非対面の両面から支援していくことになりそうです。

	1学期	夏休み	2学期	3学期	合計
2020年度	6時間	-	723時間	538時間	1267時間
	小学校1校		小学校2校 中学校1校	小学校3校 中学校1校	小学校3校 中学校1校
2021年度	1239時間	70時間	1231時間	592時間	3132時間
	小学校3校 中学校3校	小学校1校 中学校1校	小学校5校 中学校3校	小学校2校 中学校3校	小学校6校 中学校4校
2022年度	1350時間	183時間	2261時間	1555時間	5349時間
	小学校8校 中学校6校	小学校1校 中学校2校	小学校9校 中学校7校	小学校10校 中学校7校	小学校12校 中学校7校

編集後記：実績報告にも書かれている通り、2023年度は対面支援、採点作業、理科実験授業の準備など多岐にわたる支援要請が増えてきつつあります。それに伴い、各学校を支援していただく支援員の方が不足することが予測される事態となっております。より多くの市民の方が学習支援ボランティアへ参加されることをお願いします。SSVCでは、この「共に学ぶ」を紙面で各公共施設での配布、また、児童生徒の父兄の方には、電子的に配布する仕組みなどの取り組みを行っております。その一環として右の二次元バーコードでアクセスできるホームページを立ち上げました。ボランティア希望される方はホームページをご参照ください。また、「共に学ぶ」のバックナンバーもここからアクセスできます。(Y.K)



SSVC ホームページです